

授 業 科目名	【Gカリキュラム】 法学政治学演習Ⅰ・Ⅱ ※本年度は開講せず 【EFカリキュラム】 法学政治学演習Ⅰ・Ⅱ	選択履修	開講年次	【G】2 【EF】2	単位数	【G】2 【EF】2
科目区分	基本科目／【G】教科及び教科の指導法に関する科目（-・-・-・-）／【EF】教科及び教科の指導法に関する科目（-・-・-・-）					
担当形態	単独	【G】教員の免許状取得のための（-・-・-・-）科目 【EF】教員の免許状取得のための（-・-・-・-）科目				
施行規則に定める科目区分又は事項等						
サブタイトル	刑法総論の議論をより深く理解する		担当者	小野上 真也		
授業概要	<p>【概要】 『入門刑法学・総論』や、その他関連文献・資料も素材にし、刑法総論に関する議論について、講義におけるよりも深く学びます。</p> <p>【到達目標】 本演習では、（下記授業内容の通り）報告担当者に報告してもらい参加者全員で議論したり、また、必要に応じて担当者からの講義を織り交ぜる、といった授業形態を採ります。したがって、受講者の皆さんに、刑法総論の幅広い知識をつけてもらい、加えて、報告する能力、議論する能力を身に付け、それをより高めてもらうことを到達目標とします。</p>					
履修条件	担当者による選抜に合格し、履修登録を許可された者であること。刑法概論を単位取得済または並行履修、刑法総論Ⅰ・Ⅱ、刑法各論Ⅰ・Ⅱを並行履修することが望ましい。					
教科書・参考書	<p>【教科書】 井田良『入門刑法学・総論』〔第2版〕（有斐閣、2018年）</p> <p>【参考書】 適宜指示します。</p>					
授業回数	授業内容					
授業内容	<p>本演習では、受講者に刑法総論の幅広い知識をつけてもらうことを目的としていますので、1つのトピックに偏ること（たとえば、前後期のすべてを「共犯論」の分析に費やすなど）のないように、配慮したいと考えています。そこで、現段階では、以下の要領で授業を進めることを予定しています。</p> <p>【前期】刑法総論の学習①（刑法の基礎理論から違法論まで） 本演習（前期）の進め方および担当決め（第1回）、刑法学の全体像と我が国の旧刑法（明治15年施行）・現行刑法典（明治41年施行）の系譜（第2・第3回）、罪刑法定主義と刑法の解釈方法（第4回・第5回）、構成要件論（構成要件〔Tatbestand〕概念とその系譜、因果関係論（条件関係〔csqn条件関係説および合法則的条件関係説〕と相当因果関係、客観的帰属論と「危険の現実化」論、不作為犯論〔とくに作為義務の発生根拠論の意義〕：第6回～第10回）、違法性（違法性概念・違法阻却論、正当行為論、正当防衛、緊急避難、被害者の同意・承諾：第11回～第15回）。</p> <p>【後期】刑法総論の学習②（責任論から共犯論まで） 本演習（後期）の進め方および担当決め（第1回）、責任論（責任論総説、責任能力論、故意論、事実の錯誤、違法性の錯誤、過失犯の諸問題：第2回～第7回）、未遂犯（未遂犯総説、危険概念・不能犯、中止犯：第8回～第10回）、共犯論（正犯・共犯の区別および共犯理論の系譜、「共犯の処罰根拠」論、共謀共同正犯論、中立的行為による幫助：第11回～第14回）、罪数論（第15回）。</p> <p>『入門刑法学・総論』や、その他関連文献・資料も素材に、以上のテーマに該当するものをピックアップして、検討を進めます。もっとも、そのうち、具体的にいかなるトピックスを扱うかについては、初回授業において受講者と相談のうえ決定します。基本的には受講者による文献報告・研究報告を基に議論をするかたちで授業を進めますが、必要に応じて、担当者からの講義を行うことがあります。受講者の報告に関しては、報告担当者を割り振り、担当者に様々な情報を調べたうえで報告をしてもらい（30分程度）、それを受け、受講者全員で議論します。</p>					
予習 復習 内容	<p>予習：指定教科書を熟読するのはもちろんのこと、他の刑法総論教科書・体系書の関連項目も読み、理解を深めておくこと。</p> <p>復習：各回で学んだこと、議論したことの内容をしっかりと把握することにつとめること。</p>					
評価方法	報告内容（70%）、授業（議論）への参加度・受講態度（30%）を総合して評価します。					
評価基準	上記授業内容について、これをよく理解し、適切に表現できた者には「A」を与えます。単元の内容についての理解や表現に不適切な点がある者はその程度に応じて「B」または「C」とし、単元の内容についての理解自体が不十分な者はその程度に応じて「D」または「E」とします。					
その他	<p>当然のことですが、全回出席を要求します。やむを得ない事情により欠席する場合には、初回授業において伝える方法において、事前に担当者まで連絡すること。無断欠席が3回以上となった者には、単位認定を行いません。</p> <p>※G刈：法【Ⅰは選択必修（A）・Ⅱは選択必修（B）】ホ°【Ⅰは選択必修（A）・Ⅱは選択必修（B）】情【Ⅰは選択必修（A）・Ⅱは選択必修（B）】／EF刈：法【選択必修（γ）】ホ°【選択必修（γ）】経【選択必修（γ）】</p>					